

日吉町



「天狗の台所」移転

日吉町の特産品「しいたけ」を加工する目的で平成24年にオープンした天狗の台所。さらなる特産品開発につなげるべく、リニューアルし、令和7年2月に新しい天狗の台所への移転式が行われました。移転後の施設では食品加工の幅が広がるため、日吉町における新たな特産品の開発を目指します。

大湫町



ててての活動

地域の若手を中心に結成されている「ててて」は、鱒（ます）の手づかみや茶摘み体験など、住民が楽しめるようなイベントを、1年を通じて複数回企画、開催しています。住民自らがやりたいことを実現し、イキイキと暮らすことで、「大湫町に誇りを持てること」を目的として活動しています！

釜戸町



NPO法人化

釜戸町内で道の駅の整備が計画される中、町民の想いを道の駅の運営につなげるため、また、発展的な地域づくりのため、今年の1月にNPO法人化しました。空き家を活用した移住促進や自然ふれあい館とのコラボイベントなど、地域に根ざした新たな魅力発掘活動を行っています。

明世地区



ホタル事業

まちづくり活動の目玉として「あきよホタルの里“福”」の整備をして早3年が経過しました。地域の子どものための環境教育ともつなげ、地域交流の場となっています。今年度はさらに地域内外の交流の拠点とすべく、瑞浪暮らしの彩りマーケット実行委員会とコラボしたスペシャルなホタル観賞会を計画中です。

瑞浪市内8地区の

住民と 共に創る まちづくり 特集

土岐地区



トレジャーウォーキング

小学生がチームごとに地区内の史跡を回り得点を競う「トレジャーウォーキング」を開催しました。地域の史跡や魅力を子どもたちに知ってほしいという想いから企画し、当日はLINEなどのデジタルを活用して実施しました。参加者からは「楽しすぎて時間が短すぎる！」などの嬉しい声をいただきました。

瑞浪地区



寺子屋事業

夏休み期間中の地域の子どものための居場所づくりのため、瑞浪駅前Mビルで昔ながらの寺子屋事業を行いました。子どもたちは、毎朝のラジオ体操で元気にスタートし、地域の方のサポートで、学習支援やギター教室、カードゲームなど多様な活動を思いっ切り楽しみました。活動を通して仲間意識が育ち、交流する楽しさが芽生えたと思います。

稲津町



ふれあい映画館

稲津町では、住民の交流の場の1つとして「ふれあい映画館」を開催しており、稲津町内外から多くのお客さんが参加します。運営のボランティアとして、地域の方々の他にも中学生が積極的に参加し、ボランティア同士やお客さんと楽しく関わっています。人との繋がりがりや優しさを感じられ、地域での青少年育成にもつながっています。

陶町



瑞浪高校との連携事業

昨年12月に地域内の小里川ダムライトアップイベントを行いました。企画、広報等は瑞浪高校の生徒が主体となっており、陶器という地域性を活かした灯籠の制作など、楽しみや学びに繋がる域学連携事業になりました。小里川ダムやNPO法人LETUSなど、複数の団体の協力を得るなど、多くの地域の「仲間」を巻き込むことで発展的な活動となりました。

【日吉町】大学生がふりかけ開発 「天狗の台所」完成記念式典で発表

「日吉町ふりかけレシピコンテスト」は、瑞浪市が包括連携協定を締結している中部大学、中京学院大学と連携し、日吉町まちづくり推進協議会による日吉町オリジナルふりかけの開発につなげるものです。食と栄養のエキスパートを目指す学生に応募してもらうことで、単に地元食材を使うのみならず、栄養価の面でも優れたふりかけレシピを考案していただけることを期待し、実際の商品化を目指すものです！

グランプリを受賞した「日吉みそ香るかき揚げ風和の心ふりかけ」は、味のアクセントに日吉みそを使用しています。マコモタケパウダーと塩を混ぜ、天ぷらに合う抹茶塩のような味わいとなっています。混ぜご飯風にしても美味しいです。



受賞者のみなさん

準グランプリを受賞した「瑞浪さたっぷり！カラフルふりかけ」は、瑞浪市の特産品であるポーノポークや瑞浪高原のはちみつの甘みを活かし、子どもたちも美味しく食べられるふりかけです。さらに、乾燥野菜が入っており、食物繊維も摂取することができます。

これらのふりかけは、「天狗の台所」完成記念式典参加者に披露され、大変好評なお声を頂きました。今後の商品化も含め、日吉町のさらなる発展が期待されます。



試食会の様子



受賞したふりかけ

【釜戸・日吉・陶・大湫】 空き家活用で移住対策

釜戸町、日吉町、陶町では、地域住民自らが地域の空き家を活用した移住対策に取り組んでいます。大湫町で同対策に取り組んでいる転入対策委員会をモデルとして新たに立ち上がってきた活動です。地域の存続・発展のために自ら立ち上がり、空き家ツアーや移住希望者との交流会を行うなど、地域の方々の顔が見えることで地域の「ご縁」を生む、地域になくはならない活動を行っています。



陶町の「空き家でええんかい」のみなさん

【明世地区】耕作放棄地をお花畑に

全国的に耕作放棄地の増加が進む中、明世地区まちづくり推進協議会と地域の高校生とがタッグを組んで、この問題に取り組む活動が行われています。耕作放棄地を映えるお花畑にすれば、地域の名所になるとともに、明世地区の課題解消につながる、そんな想いから活動が始まりました。

当初はお花畑で外部の人を惹き付けることが目的だったものの、活動する中で、地元の人が愛着を持ち、人の輪が広がって自走できることが、まちづくりの本質だと気付くことができました。当初夢見た、一面のお花畑はできなかったものの、今後は、お花の専門家に協力いただくなど、昨年の反省を活かし、継続・発展していきます。



耕作放棄地がひまわり畑に

【大湫町】大杉再生への取り組み

大湫町では令和2年7月、地区の象徴であった大杉が倒木しました。心の拠り所であった大杉を残したいという住民の想いが一致したことをきっかけに、住民が世代を超えて一つとなり、倒木直後に若手や移住者も加えた「神明大杉再生検討会議」を立ち上げました。その後の活動では、SNSでの情報発信を通じて地域内外の理解を得て、クラウドファンディング等で資金を確保し、その知識を活かして新たな地域づくりを実現させています。また、倒木した大杉からビールやバイオリン、太鼓を作り、音と食で町の歴史を体験するイベントも開催しており、大杉再生が地域づくりの新たなスタート点となったと言えます。



完成した大杉のモニュメント

☞ P〇～〇の記事は、インターンシップに参加した岐阜大学・名古屋大学の学生が作成しました。実は、P〇の背景は瑞浪市の地図になっているんです！皆さん気づきましたか？